

も飯野、福田、津森などの中山間の地域では、一人暮らしの高齢者や高齢のご夫婦だけで生活されている人が多くおられ、医療、交通、買物、さらには食事の問題など、日々の暮らしの大きな不安に対する切実な声をたくさん聞きました。

さらに、他の地域でも、町政に対する要望やまちづくりへの提案など、たくさんの方の意見をいただきました。

それらの貴重な意見、提案に耳を傾けていくうちに、一番強く感じたことがあります。それは、町が本来やるべきことは何かということです。

これからのまちづくりは、私自身はもちろん、職員が積極的に地域へ出向いて、町民のみなさんと直接話をし、地域の実情をよく知ったうえで業務を行うことが必要です。

今後は、みなさんが実際に暮らしている地域、すなわち、現場を大切にする、まさに、現場主義、町民目線の町政運営が必要であると痛感しました。

私が訴えてきたのは、厳しい財政状況の中で、10年後20年後の町の将来人口や年齢構成を見据えた明確なビジョンの構築、積極的な情報公開による「町政の見える化」すなわち町政の透明化の推進、そして、町民のみなさんと一緒になって考え、まちをつくる、共創による「町民が主役のまちづくり」です。

マニフェスト ～公約に示した6つの約束～

●町づくり基本条例の制定

自治体の憲法と言われる「町づくり基本条例」の制定を目指します。これからのまちづくりの基本となるルールを総合的に定め、共創によるまちづくりへの転換を図ります。

●財政の立て直し

町が将来にわたって「自立した自治体」として発展していくための行財政基盤を構築するため、新しい発想で事業を見直し、大胆かつ抜本的な行財政改革を進めます。各種事業の見直しにあたっては、スクラップ＆ビルドを大前提に、今までのようなビルド一辺倒ではなく、財源の裏付けに基づいた事業の検証を行います。併せて、しっかりした中長期の財政計画や事業の優先順位を明確にした事業計画を策定し、着実な業務遂行を図ります。

●町長給料の10%削減

財政の立て直しをトップ自らが身をもって示すため、町長給料を10%削減します。町長交際費についても透明性を高めるなど見直しを行います。

●どこでも町長室を開催

「開かれた町政」を実現するため、みなさんの意見を伺う場として「どこでも町長室」タウンミーティングを開催します。今までのような参加者を限定した行政座談会ではなく、誰でも自由に参加できる場として開催し、提案いただいたことについて、今後の町政の推進に役立てます。

●行政情報を積極的に公開

行政情報を積極的に公開し、町政への町民参画を進めます。町政の主役である町民のみなさんに各種事業の企画の段階から積極的に情報を提供し、計画作成に参画していただく町づくりを推進します。

●マニフェストの検証

選挙時のお約束を言いっ放しにしないため、自らのマニフェスト(公約)の検証を行います。マニフェストは作って終わりではなく、実効性のある年次計画を作成し、達成状況を分かりやすく町民のみなさんにお知らせすることで、町政の見える化を更に進めます。